

国土審議会 第27回北海道開発分科会

令和5年9月15日

【増田総務課長】 定刻となりましたので、ただいまから国土審議会第27回北海道開発分科会を開会いたします。私は、当分科会の事務局を担当いたします、北海道局総務課長の増田でございます。議事に入るまでの間、事務局で会議の進行を務めさせていただきます。

当分科会は、本日現在、国土審議会委員4名及び特別委員16名の計20名から構成されております。本日の会議は、オンラインを併用して実施しておりますが、国土審議会令に定める定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

本日の議事についてでございますが、国土審議会運営規則の規定によりまして、原則として会議及び議事録を公開することとしております。このため、事前に傍聴を希望された皆様にはオンラインで、一部の報道関係者には会議室で傍聴いただいておりますが、報道関係者によるカメラ撮影は、円滑な議事進行のため、議事に入る前の冒頭のみとさせていただきます。また、議事録につきましては、後日、委員の皆様にご確認いただいた上で、発言者氏名入りで公開させていただきますので、あらかじめご了承くださいようお願い申し上げます。

本日の配布資料については、議事次第に記載のとおりとなっております。委員の皆様には事前に電子メールにより送付させていただいております。傍聴の皆様につきましては、当分科会のホームページに資料一式を掲載しておりますので、必要に応じてご参照ください。

なお、通信環境によるトラブルが生じた際に、事務局の判断により、一度、会議の進行を中断させていただく場合がございますので、ご了承ください。

本日の出席者のご紹介につきましては、時間の都合上、出席者名簿により代えさせていただきます。

なお、中村裕之委員、橋本委員におかれましては、所用により途中でご退席される旨、田澤委員におかれましては、途中からの出席になる旨、お聞きしております。また、北海道知事の鈴木委員におかれましては、公務の都合により、代理として濱坂副知事にご出席いただいております。高橋委員、徳永委員、長谷川委員、堀井委員、秋元委員、篠原委員、中村太士委員、矢ヶ崎委員におかれましては、所用によりご欠席とのご連絡をいただいております。

なお、欠席される秋元委員からは事前にご意見をいただいております、内容については出席者

にお知らせしているほか、議事録にも収録させていただきます。

次に、国土交通省の出席者についてですが、出席者の皆様に事前に送付しております出席者名簿をもって代えさせていただきます。

ここで、分科会の開催に当たりまして、北海道局長の橋本から挨拶申し上げます。

【橋本北海道局長】 おはようございます。北海道局長を務めています橋本です。本来であれば、ここで国土交通大臣政務官の清水真人政務官からご挨拶いただく予定でしたが、報道等で皆様ご存じのとおり、内閣改造に伴う副大臣、政務官の交代がちょうど本日となりまして、政務官から預かっている挨拶を交えながら、お礼の言葉を申し上げたいと思います。

石田分科会長をはじめ、委員の皆様方、ご多忙のところ、この北海道開発分科会にご出席賜りまして、本当にありがとうございます。3月9日の分科会の際も申し上げましたが、北海道をめぐる状況は、ポジティブな意味で大きく変わっている最中であり、そのタイミングで9期計画の策定に携われるということを非常に嬉しく思っております。

北海道の強みとして、過去から挙げられている「食」「観光」に加えて「脱炭素」、再生可能エネルギーのポテンシャルにも価値が見出されている中、真弓計画部会長に非常にポジティブな素案をまとめていただいたところです。本日もご出席の委員の皆様方には引き続き忌憚のないご意見を頂戴できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【増田総務課長】 報道関係者の皆様によるカメラ撮影はここまでとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、以降の議事進行につきましては、石田分科会長にお願いしたいと存じます。石田分科会長、よろしくお願いいたします。

【石田分科会長】 おはようございます。分科会長を仰せつかっております石田でございます。

それでは、早速議事に入らせていただきます。

本日の議題は、第9期北海道総合開発計画に関する計画部会報告についてでございます。第9期北海道総合開発計画につきましては、本年3月に開催しました第26回分科会において、計画部会による中間整理をご報告いただきました。計画部会では、中間整理以降も各委員により精力的に審議が進められ、このたび計画部会報告が取りまとめられたと伺っております。この計画部会報告は、本日の調査審議を踏まえて、第9期計画の素案として取りまとめを行い、今後パブリックコメントにかけられる予定のものでございます。

まずは、中間整理以降の経過も含めて、その概要を計画部会長の真弓委員からご報告いただきます。

それでは、真弓委員、よろしくお願いいたします。

【真弓分科会長代理】 ありがとうございます。ただいまご紹介いただきました、計画部会長を務めさせていただいております真弓でございます。私から、第9期北海道総合開発計画に关します計画部会報告の概要について、お手元の資料2-1に基づいてご報告させていただきます。

資料2-1の1ページをご覧いただきたいと思ひます。まず、検討経過についてご説明申し上げます。皆様ご案内のとおり、当計画部会でございますが、新たな計画の策定に向けまして、令和3年10月の第25回北海道開発分科会において設置されました。その後、7回にわたります論議を経まして、本年3月の第26回北海道開発分科会におきましては、新たな計画の中間整理をご報告させていただいたところであります。その後の状況でありますけれども、中間整理以降、前回の分科会で出されましたご意見を踏まえるとともに、道内の地方公共団体、経済団体、さらには地域で活躍される方々のご意見も反映しながら、5月の第8回、7月の第9回の計画部会において計画本文の調査審議を行い、計画部会報告として取りまとめさせていただきました。そして、本日の第27回北海道開発分科会へご報告させていただくことになった次第であります。

続きまして、2ページをご覧ください。計画部会報告の概要についてご説明いたします。現行の第8期計画の中間点検、こちら、2021年の2月にまとめましたが、その中間点検以降、ロシアのウクライナ侵略、新型コロナウイルス感染症のさらなる拡大や2050年カーボンニュートラルに向けた国の政策展開など、我が国、そして北海道を取り巻く状況に急速かつ大きな変化が生じました。そのような状況におきまして、北海道の強み、価値を改めて確認しますと、現行の第8期計画で戦略的産業と位置づけた食と観光に加えまして、再生可能エネルギーのポテンシャルによる脱炭素化を3つ目の強み、価値と位置づけまして、これらの価値を最大化することにより、豊かな北海道を実現することと我が国の経済安全保障に貢献できるものと考えたところであります。これら北海道の価値は主に地方部の生産空間において生み出されていますけれども、生産空間は広域分散の地域構造を持っており、人口減少が著しく進む中で、定住環境の維持が大きな課題となっています。このため、人々のリアルな営みを支えるインフラの整備と、それを補強・補完するデジタル技術の活用により、生産空間の維持・発展を図ることが重要となります。このような考え方の下、第9期計

画の計画期間となる今後10年の取組につきましては、2050年を見据えながら、生産空間の維持・発展、ゼロカーボン北海道の実現、デジタル産業の集積促進、北方領土隣接地域の振興、ウポポイを拠点とした文化振興など、北海道開発を一層推進することとしています。また、大規模災害への対応による国土強靱化にも引き続き取り組むこととしております。

続きまして、同ページの下段の中間整理からの主な変更点についてご説明いたします。

1点目は、本文冒頭に、前書きとなります「第9期北海道総合開発計画の策定にあたって」、こちらを追加いたしました。本計画が、生産空間を含めて、北海道独特の地域構造、特徴や課題などを踏まえたビジョンであることに触れつつ、北海道の価値を最大化するため、多様な主体と「共に北海道の未来を創る」という、本計画に込めた中心的メッセージとして記載させていただいたところであります。

2点目は、前回の分科会において計画に取り込むようご意見をいただきました、半導体・デジタル産業に係る産業拠点の形成についても記載を追加いたしました。次世代半導体の国産化を目指す企業が北海道に工場予定地を選定したことを契機として、北海道でのデジタル産業の集積、国内製造基盤の強化により、経済安全保障に貢献していくことを示しました。

このほか、分科会での議論や地域からのご意見などを踏まえまして追加、修正を行ったところであります。修正内容の詳細につきましては、追って事務局から説明をお願いします。

私からの報告は以上となります。

【石田分科会長】 ありがとうございます。

続いて、会議室の皆様の上には、オンラインでご参加の皆様には電子メールで既に配付されていると思いますけれども、計画部会長の真弓委員から、「第9期北海道総合開発計画の着実な推進について」と題したペーパーが提出されております。

真弓委員、これについても引き続きご説明をお願いいたします。

【真弓分科会長代理】 ありがとうございます。お手元に、計画部会長、私の名前で配付させていただきました「第9期北海道総合開発計画の着実な推進について」、ご説明を申し上げます。これは、第9期計画の閣議決定がされた後、この計画を着実に推進するために取り組んでいただきたい項目を4点、誠に僭越でありますけれども、これまでの計画部会における議論を踏まえましてご提案させていただくものであります。一通り読み上げさせていただきます。

国土審議会北海道開発分科会計画部会では、昨年3月から、第9期北海道総合開発計画に

ついでに調査審議を進め、今般、部会報告を取りまとめたところである。

本計画を着実に推進するためには、実施主体となる各自治体や産学などのステークホルダーとの連携を密にし、相互理解の上、計画的かつ効果的に進めていくことが極めて重要である。したがって、北海道局・北海道開発局においては、特に下記の取組をお願いしたい。

1、計画で掲げる内容を、地域性も踏まえて強力に展開するため、各開発建設部に、計画の推進を主たる目的とする組織を置くこと。

2、上記組織に対し、計画の考え方を十分理解し、地域との共創を実践できる人材を充てること。

3、計画を積極的に展開するため、必要な予算を多角的に確保・拡充すること。

4、以上の「組織、人材、予算」を最大限活用し、道民、各自治体、産学とも連携した地域との共創、積極的で丁寧な広報・広聴等を行うこと。

以上、私からの提案とさせていただきたいと存じますが、国土交通省のお考えをお伺いしたいと思います。後ほどでも構いませんけれども、橋本局長のお考えをお伺いできればと存じます。

【石田分科会長】 ということでございますので、橋本局長、よろしく願いいたします。

【橋本北海道局長】 発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。

まず、真弓部会長には、計画部会報告を取りまとめてくださった上に、このような極めて重要なご指導を賜りまして、本当に心から感謝しております。石田分科会長からも、従前から、現行計画の進め方に対する課題をご指摘いただき、それらを踏まえた推進策を改めて立案するようご指示を賜っていたところです。このような形で4点、明確にご指示してくださったことを大変ありがたく思います。これを踏まえまして、開発局とも議論を深めてまいりたいと思いますが、現時点での考えを、順にお答え申し上げます。

まず、1、組織の話ですが、先ほどの前書きもそうでしたが、他で代替できない北海道の価値というものを前面に打ち出してポジティブにまとめてくださった、この計画です。私たち自身も、これまでと異なる踏み込んだ取組を行いたいと思っております。北海道開発局の10の開発建設部に、計画推進を明確に目的とした課の新設を考えているところで、名称としては「地域連携課」といったものをイメージしております。

これを各開発建設部長の直下に置いて、この計画でうたっている共創、共に創る共創を先導する、河川、道路、港湾、農業といった各事業部門横断的な課をイメージしております。今後査定庁とのやり取りが本格化しますけれども、こうしたご指示も追い風にして、何とか

実現してまいりたいと思っっているところです。

次に、そこに実践できる人材を充てることについてですが、組織の本気度の問題であり、開発局長はもちろん、事務系、技術系にも河川、道路、港湾、農業、営繕といった各部門の人事担当部長、人事担当課長とも共有して、しっかりトップダウンで実現することをお誓い申し上げたいと思います。

次に、計画を積極的に展開するため、必要な予算を多角的に確保・拡充することという点ですが、北海道開発行政を推し進める予算には、私どもが開発局で行っております社会資本整備を行う一般公共事業費とは別に、北海道開発計画推進等経費という非公共予算がございます。長く減少傾向が続いていましたが、今年度の予算でようやく少し反転させることができました。このトレンドを続けてこの経費を拡充していくことと共に、「多角的に」と書いて下さっている通り、大学や外郭団体の自主事業といったものもあるのかもしれませんが。そういったものとの連携などにもチャレンジしてまいりたいと思っております。

最後の共創、それから積極的に丁寧な広報・広聴ですが、毎年年度末に向けて北海道開発局の広報広聴計画というものを策定いたします。今年もちょうどこの閣議決定と相前後してそういったものの議論を本格化していくこととなりますが、本日も札幌から北海道開発局長、柿崎が参加しておりますが、柿崎のリーダーシップの下で、このいただいたご意見を踏まえた第9期計画推進というところにずっと主眼を置いた計画をつくっていきたいと思っております。

北海道局と開発局の幹部、10人の開発建設部長も含む会議体を設けておりますが、そうした場を使いながら組織全体で共有して、このご指示をしっかりと実現してまいりたいと思っております。ありがとうございます。

【石田分科会長】 ありがとうございます。

ただいま橋本局長からご回答いただきましたけれども、真弓委員、今の回答に対して何かありますか。

【真弓分科会長代理】 どうもありがとうございました。ご意見、十分理解したところであります。どうぞよろしく願いいたします。

【橋本北海道局長】 ありがとうございます。

【石田分科会長】 ありがとうございます。

それでは、引き続き事務局からの説明がございます。委員の皆様からのご意見はその後にお伺いしたいと思います。

それでは、事務局から説明を開始してください。よろしくお願いいたします。

【石川参事官】 北海道局参事官の石川でございます。ただいま真弓部会長から計画部会報告概要について説明いただきましたが、引き続き、部会報告の構成、中間整理からの修正点などについて私から説明させていただきます。資料を共有いたします。

まず、資料2-1の3ページ目からでございます。ここに示しているのが第9期計画の構成になります。前書きと4つの章から成り立っております。中間整理からの変更点は、前書き、「第9期北海道総合開発計画の策定にあたって」、これを追加しているところがございます。1章から4章にかけては、中間整理から基本的に変わっておりません。

次ページ、4ページです。こちらが第9期計画策定に当たっての考え方になります。先ほど真弓部会長のほうから詳しく説明していただいたので、私からは省略いたしますけれども、「他で代替できない北海道の価値」、それから「価値を生む空間」、「価値の最大化」を考える視点ということで、考え方をポンチ絵にまとめたのがこの資料になります。

次ページ以降、計画部会報告の第1章から第4章の概要でございます。これは、前回分科会の中間整理のときにご説明させていただいておりますので、今回は割愛させていただきます。

次に、資料2-2でございます。これが第9期北海道総合開発計画に関する計画部会報告本文でございます。ここでは、中間整理からの主な変更箇所を取りまとめた資料2-3を使いまして説明させていただきます。本文を抜き出して書いておりますけれども、右上に資料2-2本文のページを記載しておりますので、併せてご参照いただければと思います。

まず、「第9期北海道総合開発計画の策定にあたって」、前書きでございます。最初のかぎ括弧の部分ですけれども、第1期の北海道総合開発計画の冒頭の文言を原文のまま引用させていただいております。昨今の情勢変化に伴って再び北海道のポテンシャルがクローズアップされているということ、第1期計画の言葉を借りつつ、北海道開発を「絶対推進すべきことがら」と記載させていただいております。中段の部分は、今回の計画は、生産空間を含めまして、北海道独特の地域構造ですとか特徴や課題を踏まえたビジョンであるということ、最後に、北海道の価値を最大化するために2050年という近未来を見据えて多様な主体と「共に北海道の未来を創る」ということをこの計画の中心的メッセージとさせていただく、との趣旨の前書きを書かせていただいております。

次に、2ページ目中段の計画の目標のところでございます。目標1の副題を、中間整理のときは、食料安全保障、脱炭素化、観光立国等を先導としておりましたけれども、脱炭素化

について、北海道の主要施策に表現を合わせることにいたしまして、「食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」と表現しております。

次に、計画の実効性を高める方策についてでございます。先ほど来話がありましたとおり、地域での計画の推進体制と推進方策ということでございまして、「北海道開発局開発建設部、地方公共団体、NPO、企業、教育機関等による連携体制を構築し、北海道の価値を高めるための官民共創の取組を推進する」ということを追加しています。

次に、3ページの下のところです。社会変革の鍵となるDX・GXの推進ということで、「GX実現に向けた成長産業分野に対するESG投資等国内外からの投資を促進するため、産学官金連携のコンソーシアムによる取組を推進する」ということを追加しております。

それから、5ページ目の計画の主要施策のところでございます。上の農林水産業に関するところで「農林水産物・食品を活かしたブランド力の強化」などを、それから、下の観光に関するところで、「持続可能な観光産業の実現」、「観光の高付加価値化による『稼ぐ力』の向上」などを追加しているものでございます。

次は、8ページ目、地域の強みを活かした成長産業の形成ということで、真弓部会長からお話のありました「経済安全保障に貢献する先端産業拠点の形成」というところを、丸々1項目追加させていただきまして、北海道へのデジタル産業の集積やデータセンターの拠点整備などについて記載しているものでございます。

次に、北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興のところでございます。中間整理では「北方領土隣接地域等の振興」としておりましたが、前回の分科会や地域との意見交換によって、国境周辺地域の重要性などに関する意見がございましたので、タイトルを「北方領土隣接地域及び国境周辺地域の振興」と換えさせていただいて、北方領土返還要求運動の後継者の育成を追記しました。

さらに、国境周辺地域の振興のところでは、「安全保障上の課題が深刻化する中、社会経済活動を支えるインフラ整備を図る必要がある」という記述を追加させていただいております。

それから、札幌における交通結節機能と都市機能の強化のところでございます。札幌の強さをしっかり維持して、他の都市をもっと強化していくようにというご意見をいただいているところでございます。札幌都市圏の有するダム機能や高次の都市機能が北海道の発展に不可欠、そして北海道の道内各地に波及させることが重要であるというようなことを記載させていただいております。

そのほかにも多くの貴重な意見をいただいております、ここに記載した以外にも修正したところがございますが、時間の都合上、ご説明は省略させていただきます。

説明は以上でございます。ご審議のほど、よろしく申し上げます。

【石田分科会長】 ありがとうございます。

それでは、審議に入りたいと思います。ただいまの真弓委員からのご報告及び意見メモとそれに対する橋本局長からのご回答、続いての事務局からの説明を踏まえまして、ご意見等をお願いしたいと思います。誠に申し訳ないんですけども、時間に限りもございますので、ご発言はお一人4分程度ということで申し上げます。事務局の回答は最後にまとめてお願いしたいと思います。個別の質問に対して、その場でお答えいただいたほうがよいものについては、適宜対応をお願いいたします。

それでは、最初に国会議員の委員の皆様から、その後、有識者の委員の皆様からご発言をいただきたいと思っております。

まずは、途中でご退席されます中村裕之委員からご発言をお願いします。

【中村（裕）委員】 中村でございます。早速意見を申し上げたいと思っております。

真弓会長代理から、計画部会長のお立場として、着実な推進の提言がありまして、役所としても、開発建設部に計画推進を目的とする課を置く要求をしているということでもあります。計画を作るとほっとするということがよくあるので、これは非常に重要な点だと思っています。私ども政治の場でも、こうした組織についても後押しをしていきたいと思っておりますし、予算を拡充するという表現もありますので、こういったこと、しっかり取り組んでまいりたいと思っております。

全体として、北海道の特性をしっかりと捉えて、また、役所のみならず、自治体、NPOや様々な大学等と連携して進めていくというコンセプトは非常にいいと思っています。食料安全保障の要となる北海道でありますけれども、道庁では26.8%という自給率を目指すという数字を出しています。これは、道民の人口減少もあるんでしょうけれども、それに加えて、今輸入に頼っている麦、大豆の部分を北海道でしっかり生産していくという目標があるわけでありまして、この26.8%というような数字もどちらかに入れていただくのかなと思っています。

また、エネルギー安全保障についても北海道は貢献していきます。再生可能エネルギーの宝庫でありますし、洋上風力については今5つの有望な区域があります。今、促進区域に向けて法定協議会も始まろうとしていますので、こうしたところをしっかりと取り組んでい

く必要があると思っていますし、それらのクリーンなエネルギーを活用した半導体、またデータセンター等、こうした経済安全保障にも北海道は貢献していける。全国の食料、エネルギー、経済安全保障、これらに北海道が貢献していける時代が間もなく来ると私は思っています。

それに加えて、気候変動であります。気候変動に対応した防災も重要ですが、もう既に海水温が上がっていて、どんどん暖かいところの魚が移動してきているんですけれども、魚は職業もなきゃ、家具もなきゃ、家もないので、住みやすいところに移動してくるんですけど、人間は家があれば、職業もあるので、すぐには移動してこないけれども、やはり環境のいいところ、住みやすいところに移動してくるとするのは当たり前の考えだと思います。これはやはり、年数はかかるとは思いますけれども、そういう可能性を北海道は持っていると思っています。

また、このたびのアドベンチャートラベル・ワールドサミット、これを見ても、世界の皆様からも北海道が注目されてくる。そして、ニセコがそうであるように、富裕層の方が北海道でのアクティビティーを楽しみに集まってくる。そういった、今までの単なる観光というのではなくて、まさにこの中にあるトップクラスの観光。ニセコを見ていると、ファーストクラスの人ばかりが集まってくる。エコノミークラスの人があまり来ないところが好きなんだと思います。だから、高いところから埋まっていくんだろうと思いますが、そういったところに北海道全体がなり得るとは思っていますので、それらのアクティビティーを楽しめるのはやはりちょっと外れたところにあるわけですから、どれを取っても、自動車専用道路を中心としたアクセスが重要です。もちろん、前にも申し上げた、リアルでしか対応できない出産、救急医療もそうですけれども、それだけではなくて、生産空間から消費者に届けるという物流、そして、都市部からアクティビティーを楽しめる地方部につなぐアクセス、そうしたものが全て、やはり北海道はまだ全国から見ると後れていますので、こうしたアクセスの改善に全力で取り組む必要があると思います。北海道は世界の宝になり得ると私は思っていますので、皆さんと共に頑張っていきたいと思っています。

以上で発言を終わらせていただき、これで中座させていただきます。失礼します。

【石田分科会長】 ありがとうございます。中村委員はここで退席されます。お忙しい中、ご出席賜り、本当にありがとうございました。

【中村（裕）委員】 ありがとうございます。

【石田分科会長】 それでは、続いて、五十音順で恐縮でございますけれども、石川香織

委員、伊東良孝委員、橋本聖子委員の順にご発言をいただきます。

最初に石川委員、お願いいたします。

【石川委員】 おはようございます。石川香織です。真弓計画部会長をはじめ、今回の様々な取りまとめにご尽力いただきました皆様、本当にありがとうございます。私からも一言意見を申し上げたいと思います。

今、北海道を取り巻く環境が様々変化していくという中で、北海道ブランドを際立たせるということは、食や観光を柱にしながら、脱炭素化を率先してやっていくということが非常に大切だと感じております。私が今います十勝管内でも、地産地消を合い言葉にしまして様々な取組が行われております。先日、家畜ふん尿を基にして水素を製造して販売するという取組をしております鹿追町、環境大臣賞を受賞いたしました。こうした取組も含めて、北海道の価値を高めるということは、地方の価値を高めるということが必要なんだろうと思っております。コロナも落ち着きまして、国内外からの観光客の方、非常に訪れる光景も見られるようになりました。にぎわいが戻ってきたなと思っておりますが、一方で、先ほどの中村先生のお話の中にもありましたが、ホテルの宿泊料金も非常に高くなっていたり、特に夏休みはハイシーズンでしたので宿泊料金が高かったということもあるんですが、もう一つは、コロナで従業員を減らしてしまった後、なかなか補充ができていなくて、回転率が下がってしまうと。それで、宿泊単価を上げるしかないということで非常に高くなっているという側面もあるそうです。タクシーも土日はなかなかつかまらないといったことも起きております。本当はもっとたくさんの人を呼び込めるはずなのに、環境が追いついていないということと、やはり人手不足の深刻さというのがより浮き彫りになった気がしております。

また、北海道は2027年に和牛の共進会を初めて開催することになりまして、その会場が十勝になりました。数十万人の方が訪れるということで、その宿泊する施設をしっかりと確保できるのかということが専ら地元の懸念でありますので、こういったことも含めて課題なのかなと思っております。

今、農業の繁忙期でして、収穫時期に入っております。北海道で作られておりますビートの収穫時期にもうじき入ってくるわけですが、ビートを集めて回るトラックドライバーの確保も非常に難しくなっております、オペレーションも年々大変になっていると。いわゆる物流の2024年問題、もちろんドライバーの過労死を是正、過労死するような働き方を是正するということはもちろんしなくてはなりません、ただでさえドライバーもいないのに仕事自体は増えているという現状では、価値のある北海道の農水産物がきちんと運べ

ないおそれがあるということで、物流がストップしかねないということは課題の一つだと思っております。

もう一つ、今、千歳でRapidusの工事も着工いたしまして、これ自体は北海道全体の利益になることを私も大変期待しておりますが、目下、この人手不足という中で、人と物が札幌中心、千歳のほうに集中してしまうということで、地元の建設業界ですとかトラック業界からは、このところ非常に懸念されております。人と物が地方からなくなってしまうのではないかとということで、人や物が取り合いという中で、ICTなどを使って省力化を図りながら、地方への配慮をどうやって工夫していくかという観点は非常に重要ではないかと私は考えております。人口減少、それから人手不足に負けない北海道をつくるためには、まずこの地方の価値をより高めていくことが非常に重要だと私は感じております。ぜひ1人でも多くの北海道ブランドの、北海道のファンを国内外につくるべく、引き続き取りまとめをお願いいたしまして、私のご意見とさせていただきます。

私も、申し訳ありません。ちょっと所用でこの後失礼させていただきますので、引き続きどうぞ議論をよろしく願います。ありがとうございました。

【石田分科会長】 ありがとうございました。

続きまして、伊東良孝委員、願います。

【伊東委員】 皆さん、おはようございます。

第26回の北海道開発分科会が開かれておりまして、それを受けての今回のこの分科会であろうと思います。大きな変化が北海道に訪れているという感じがいたしております。今石川さんの話にもありましたが、私が最近本当に感ずるのは、ここ数十年の間でこれほど大きな、北海道の劇的な変化というのはそうないのではないかとことであります。その大きな一つは、やはりRapidusの着工、そして5兆円を超える多額の投資、これによって、水資源もそうでありますし、あるいは地域の環境というものを含めて、大きな動き、変化が出てくると思います。北海道にとって非常にこれはいい事業だと思いますし、期待もしているところでありますけれども、長い間北海道は、千島海溝・日本海溝の津波対策、国土強靱化、さらにはまた港湾、高速道路等々の整備、これが進められてきたところであります。ただ、今回は大きな転換になると思ひまして、中でもやはりRapidusが着工し、これから操業に向けての環境整備を図っていくということになりますと、これは北海道で大きな電力をやはり必要とする話になってまいります。今まで本州と北海道で北本連系線があったわけでありまして、これとて僅か90万キロワット、これから頑張って120万

キロワットという話でありますけれども、政府として昨年の暮れには、これを800万キロワット、北海道と本州の電力融通を図れるようにしなければならないという方針を立てていただきました。洋上風力も含めて、自然再生エネルギーをもっともっと確保していく、これが大事であろうと思います。データセンターの話もありますけれども、データセンター1か所で100万キロワットの電力が必要だと言われる状況でもあります。ですから、この電力の確保というのは、Rapidusだけではなく、電力会社も、それからその関連産業も含めて、北海道にとっては重要な課題になってくると、このように思います。あわせて、海底に光ファイバーのケーブルを敷設して欧米と日本を結ばなければならないという課題も出てきているところでもありますので、電力あるいはデータ、そして光ファイバー通信網、こうしたものを同時に整備していかないと、この1つ欠けてもなかなかRapidusの安定操業は難しいのではないかなという、そんな気がいたしているところでもあります。

これに伴いまして、人材の確保ということで、道内の北大、室工大、北見工大をはじめとする大学の卒業生、また北海道の4つの高等専門学校の若者たちをこれから技術者として教育していく、この課題も非常に大事なものになってくるところでありますし、北海道の雇用状況がこれによってまたどんなふうに変化するのを見極めていかなければならないと思いますし、あわせて、居住環境、医療もそうでありますし、教育環境もそうありますし、これに付随する住宅環境の整備というものが千歳・苫小牧周辺で求められてくるものと、このように思うところでもあります。今まではどちらかというと北海道局及び北海道開発局、ハードの面が多かったわけでもありますけれども、今度はハードに加えてソフトの面で相当充実したものを補完し、また後押しをしていかないと、バランスの取れた北海道の発達、発展というのはないのではないかな、そんな思いがするところでもあります。

今回、今朝になりまして、堀井学代議士、外務副大臣になりました。また、渡辺孝一代議士も総務副大臣ということで、これは北海道総合通信局も担当するところでもありますし、期待するところでもあります。また、高木代議士も復興副大臣ということであり、ぜひ北海道、東北のためにまた頑張ってくださいと思う次第であります。

私からは、雑駁でありますけれども、以上であります。

【石田分科会長】 ありがとうございました。

お待たせいたしましたけれども、続いて橋本聖子委員からご発言願います。

【橋本委員】 皆さん、おはようございます。橋本聖子でございます。北海道開発分科会、日頃から大変お世話になりまして、真弓計画部会長様はじめ、開発局の皆様方にお世話にな

っていること、改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

今回の報告案の内容につきましては、食料の安全保障を支える施策、そして観光立国を先導する施策に加えて、多様な再生可能エネルギーによる脱炭素化を新たな価値として位置づけて、今大変な課題であります地球温暖化対策を先導する施策が盛り込まれましたけれども、今までのご意見を取りこんでまとめていただいておりますこと、大変感謝しております。

先ほどから各先生からR a p i d u sの話がありましたけれども、私からは本当に1点だけお願いをしたいと思っております。北海道のやはり魅力というのは、大自然であるということ、そして、行きたいところである、そして、おいしいものがいただける場所であるということ、そして、北海道の大自然を生かしたアクティビティーというんでしょうか、ウィンタースポーツは特にそうですけれども、ほかのところにない価値があるという、その魅力を求めて今までは来られていたんだと思います。そう言いますと、やはり北海道というのは、誰もが第一印象は広大な自然、大自然、そこが大きな魅力だったんだと思いますけれども、たくさんの開発が進んでいくことは非常にいいことなんですけれども、より大自然をどのように確保するか、そして、この地球上で大切な森林、そういったものをどのように維持していくのかということ、これが非常に重要だと思っております。その中で、北海道の水資源や再生可能エネルギー等の魅力というものがあるからこそ、今回R a p i d u sが進出してくださってきたと思っております。その需要と供給というものをしっかりと確保する努力をしていくということ、そして、やはり、世界の最先端技術のR a p i d u sが来るということは、ほかの産業も最先端に行く産業になっていかなければ連携は取れていかないだろうと思います。ただ単にR a p i d u sが進出することによって北海道が発展することだけではなくて、やはり農業も、あるいは教育、そして医療、全てにおいて最先端の技術を有する機能がこの北海道に集約されるという将来構想図を描いていただければと思っております。R a p i d u sの方々が、この北海道はシリコンバレーの魅力というものがふんだんにあるというお話をされておりましたけれども、そういったことの整備というものは全ての産業と全ての自治体との連携と人材育成というものがあって初めて成り立っていくんだと思っておりますので、魅力ある北海道から世界に冠たるすばらしい、この北海道が成長されていく中で、どのように持続可能な社会を、地域をつくっていくのか、これが世界に注目されるものになるようにぜひお力添えをいただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

【石田分科会長】 ありがとうございました。

続いて、今回ご欠席の長谷川委員から事前にご意見をいただいておりますので、事務局に代読していただきます。よろしくお願ひいたします。

【増田総務課長】 それでは、代読させていただきます。

参議院議員の長谷川岳です。

時代の大きな変曲点において北海道の存在感が増している中、その将来像を描く議論に参画できることを、改めて嬉しく思います。

また真弓計画部会長には、計画案をこのような形で丁寧にまとめて下さったことに対し、心から敬意を表する次第です。

自分は常々「政策は作品」と捉えており、その考えで各省の皆さんと政策議論を重ねています。チャレンジなく、労せず出来てしまうものは作品とは言えず、強い意志や高い温度感を伴って初めて「作品」であると考えます。

その点で今回の計画案は、「前文」に込められたメッセージは勿論、従前からの柱である「食」「観光」に「ゼロカーボン北海道」や「成長産業の形成」が新たに加えられるなど、時代を捉えた意志や温度がしっかり宿っているものと感じます。

私は現在、産学官民の様々な立場の皆さんと共に、水素活用、洋上風力、海底直流送電網、蓄電池、デジタル産業支援等を多角的に推進しているところですが、その根底にあるのは「北海道の利用価値」ではなく「存在価値」に対する強い想いであり、前文にある「他で代替できない北海道の価値」という認識に共感を覚えました。

加えてこれらの取組は、戦後の北海道開発の黎明期以来、再び北海道に対する大きな投資を呼び込むものであり、第1期計画の言葉を引いて「北海道開発は改めて絶対推進すべきことがらとなった」とする前文の認識にも、強く支持を表明する次第です。

その関係では、前回の分科会で「金融行政も加えた新しいゼロカーボン推進体制構築の方向性」を盛り込んでいただきたい旨をお願いしたところ、「GX実現に向けた成長産業分野に対するESG投資等国内外からの投資促進や、産学官金連携コンソーシアムによる取組」という形で記述していただき、感謝申し上げます。

前回の分科会の意見の結びで「北海道の新しい未来を作る計画を共に作ってまいりましょう」と述べました。

「共創」が掲げられた計画案が分科会の議論や今後のパブリックコメントを経てさらに良いものとなり、年度内の閣議決定に至るよう、私も全力を尽くしてまいります。

以上です。

【石田分科会長】 ありがとうございます。

それでは、ここから有識者の委員の皆様にご発言をお願いしたいと思います。代理出席をいただいております北海道の濱坂副知事は、恐縮ですが、最後に指名させていただきます。

それでは、まず家田委員からお願いいたします。

【家田委員】 家田でございます。発言のタイミングをいただきまして、どうもありがとうございます。ここまでのいろいろな意見も言わせていただいて、よく取り込んでいただいているなという感じがしまして、どうもありがとうございます。

それで、その上でちょっと感じるようなことをお話し、2点ほどしようと思っているんですけども、1点は前文のところ、よく書けているんですけど、変更箇所の資料2-3の1ページのところ、その中の第2パラグラフで、「直近の数年の間に、世界・日本は過去に経験したことのない」、これはありますよね。その中で、1つはウクライナ侵略を契機として食料安全保障が顕在化したこと、これもそのとおりなんですけど、これは北海道のことだけ書いているんじゃないかと、日本と世界全体なので、少なくとも全国の国土形成計画ではもうちょっと広く書いているんですよ。それは何かというと、エネルギーの安全保障であり、また東アジア情勢の安全保障と書いてあるんです。だから、このところで、次の北海道のところに行きたいからどうしても食料をクローズアップしたいのは分かるんだけど、この文脈で書くとすると、東アジア情勢の話とエネルギー安全保障、それからデジタル産業のサプライチェーンの危機、これも併せて書くと、一言二言入れていただくと、より鮮明になるなと思いました。これが1点です。

それからもう1点は、10ページの、「札幌都市圏は道外への人口流出」、この文脈です。これもそのとおりなんですけど、札幌が「一定の役割を果たしており」ということで、そのとおりなんですけど、その一方で、道内の他の中核都市の機能低下といいますか、伸び悩みといいますか、縮小といいますか、そういう実態が起こっているんですよ。この構造は、全国での東京一極集中と全く相似形になっているので、やはり旭川なり、これから函館とか小樽は状況変わりますから、ぐっと変わってくるんだろうけど、また苫小牧も変わりますよね。帯広でしょう。こういうところが次にチャンスを持つべきだし、ポテンシャルあるよと。ここまではつらかったけど、これから頑張ろうみたいなことをちょっと都市の名前を入れたほうがいいんじゃないかなという感じがしています。それで、最後の文章で、札幌の機能を、「これらを」というのはそういう意味ですが、道内各地に波及させることが重要であるとい

うのは何となく、所得とか物流とか経済の流れが外にもじわっと行きやいいという文面に読めちゃうんだけど、それに加えてやはり、道内のほかの都市の強化に観光なんかも活用しながらやっていこうじゃないか。これは先ほど橋本先生もおっしゃった文脈だと思うんですけども、それは思いました。以上2点です。

最後、余計な話かもしれないですが、真弓先生からの先ほどのご提案は大変に、危機感にあふれてというか、使命感にあふれたことで、同感するところでございます。ただ、若干の意見を申し上げさせていただくと、これが例えば東北地方とかほかの地方ですと、都道府県がいろいろ複数ありますので、それを国の官庁が何らかもう少し計画として推進するのを我慢しろというのはよく分かるんですけども、北海道の場合は道1つしかないですから、いわば市町があって、そうすると、この開建というものがこの辺の機能を強化するという文脈は、やはり道なり市町なりとの強力な連携の下にというものがないと国民的な、若干の違和感を感じないでもないもので、これは橋本局長のほうへのお願いですけれども、ぜひ、そういう理解をするほうが健全じゃないかなと思いました。

以上、申し上げました。どうもありがとうございました。

【石田分科会長】 ありがとうございました。

続きまして、垣内恵美子委員、お願いできますでしょうか。

【垣内委員】 おはようございます。ありがとうございます。まず、計画部会報告取りまとめにご尽力いただきましたこと、感謝申し上げます。その上で、ここに盛り込まれた、食、観光、アイヌ文化に関しまして2点ほどコメントさせていただきます。

まず1点目、アイヌ文化の振興を主要施策に位置づけていただきましたこと、非常に高く評価したいと思いますし、期待も持っております。ただ一方で、北海道には非常に多様な文化資源がございます。例えば、テロワールといいますか、北海道固有の風土の中から育まれてきた農産物、そしてそれを使った食文化というものもございますし、開拓期も含めて、各地に残る歴史的・文化的な価値がある建造物も、大変多く残っております。また、動態展示で有名なミュージアムがあったり、ユネスコの世界遺産に登録されている北の縄文遺跡など、非常に多彩で多層な文化資源が残っております。また、各地の美しい景観、文化的景観というふうにも考えられますけれども、人々の生活や生業と合わさってできてきた景観かと思えます。こういったすばらしい文化資源がある、多様な資源があるということをぜひ強調していただければと思っております。なお、この報告書の中に「わが村は美しくー北海道」という動きがあるということも紹介されておりますが、フランスの美しい村連合を思い出

しました。フランスでは2地域居住の方も多いと聞いております。こういったライフスタイルをさらに広げていくことによって、他で代替できない北海道の価値につながるのではないかと思いますので、この辺り、もう少しご配慮いただければと思います。

2点目ですけれども、こういった文化資源というのは、誘客力、人を引きつけるという力も非常に大きいわけで、文化観光の推進も重要であると思っております。この報告書では、環境・文化の保全と観光が両立した持続可能な観光ということも記載されております。非常に期待しているところです。文化資源の価値を新たにつくり、そして保全し、継承していかないと、それを十分に利用できない。この辺りも含めて、ぜひ計画の中に実効性のある形で盛り込んでいただければと思っております。

以上、2点申し上げました。ありがとうございます。

【石田分科会長】 ありがとうございます。

それでは、続きまして、到着の直後で申し訳ございませんけれども、田澤由利委員からご発言をお願いいたします。

【田澤委員】 テレワークマネジメントの田澤でございます。大変遅くなり、申し訳ございません。どうしても以前から入っていた所用がありましたので。ただ、東京に出てくるので、ぜひここに来たいと思ひまして、タクシーの中からもオンラインで参加し、今、リアルに来られたこと、非常にうれしく思っております。こういう形で出席させていただけることに感謝申し上げます。

さて、こちらの報告に関して、私の意見というか、ぜひ皆様にお伝えしたいことは、本当にコロナ禍において働き方が変わりました。特に、感染防止の観点からテレワークという働き方が広がりました。私、もう20年ぐらいこの推進をやっているんですけども、今回のコロナで、もちろん戻っているところもあるんですけども、できるようになった。今回のオンラインもそうですけれども、そういった社会の変化の中で、私は北海道の大きなチャンスだと思っております。もちろん、ここに書かれている全て、すごく重要だとは認識しているんですが、こういった環境振興も含めて、いろいろな施策のためには若い人の力が必要になります。そういった人たちが、北海道から東京とか大阪に行っちゃうんじゃなくて、北海道にいながら働くことができる、あるいは、遠くで就職したとしても、ちゃんと帰ってこられる。そして、その結果、全然関係ない人も、今ワーケーションとかございますけれども、北海道の魅力でこちらに来る。そういった人という、本当に一番ベースになる人たちに北海道に長くいていただき、そして、我々、私も実は移住の者なんですけれども、魅力に駆られ

て、もう25年以上たちました。そういう人たちが、仕事ができるから北海道にいて、そして、この計画でいただいたいろいろなことがその人たちを中心に進んでいくということを心から願っております。

事例を少しだけお話ししますと、大きな東京のIT会社の社員さんが、どこに住んでもいいとってオホーツクの町に家族で移住してまいりました。もう1年半なんですけれども。実は、奥さんが大手企業に勤めていらっしゃって、そのまま大手企業の仕事を替えずに住んでいらっしゃいます。お子さんは小学校に入学しまして、町ぐるみでかわいがっていただいています。そして、ご主人は、フリーランスでいらっしゃったんですが、町に来てから地元産業の工場で働いたりとか、いろんな地域の産業を学んだ上で、今、町議になられました。これこそが、人が来て、地域が元気になる、また若い子供たちがやってくる、一つのテレワークという働き方が効果を示した小さな例ですけれども、これがもっともっと今後広がっていけばと思っております。

そういう思いも込めて、ぜひ皆さんにも今後その動きも見ていただければと思っております。

以上です。

【石田分科会長】 ありがとうございます。

続きまして、中嶋康博委員、お願いできますでしょうか。

【中嶋委員】 中嶋でございます。

よろしくお願いたします。私、計画部会にも参加させていただきまして、農林水産業施策を中心に報告作成の議論に関わることができたこと、大変ありがたく思っております。私自身の意見は計画部会で既に述べておりますが、ここで取りまとめに当たっての幾つか感想めいたコメントをさせていただきたいと思っております。

まず、開発計画の目標1「我が国の豊かな暮らしを支える北海道」でございますが、これをめぐる検討におきまして、北海道が我が国全体に対してどのような貢献をするべきか、できるのかを様々な角度から議論して、実効性の高い計画を策定することで、北海道の価値を明確にさせていただいたと思っております。また、目標2「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造」、これをめぐる検討において、さきの目標1を実現するための課題を点検することで、北海道のポテンシャルを明示し、持続的な発展に向けた道筋を整えていただいたと理解しております。計画を進めるに当たって、実効性を高める方策が幾つか指摘されておりますが、個人的にはその中で、フロンティア精神の再発揮という部分が多くの方々へ大事な想

いを伝えることになるのではないかと感じました。現在既に道内で活躍されている関係者の方々を奮い立たせるとともに、道外の志を持つ人々へ取組への参加を呼びかけるようなメッセージになればと思う次第です。

さて、いつきに比べて世界の食料価格は落ち着きを取り戻しておりますが、我が国を取り巻く国内外の食料事情は過去30年と比べるとさま変わりしたことに留意しなければいけないと思っております。我が国の食料安全保障を支える北海道の役割は、以前より、より増して大きくなっているところでございます。それで、第4章の計画の主要施策において、先ほどの目標1を達成するために示された、我が国を先導する農林水産業の生産力強化、これを着実に進めることで国内生産の拡大に大きな成果が期待できます。ただ、そのことが我が国全体の食料安全保障の維持・向上へと結びつくには、目標2の、これのために示された産業を支える物流基盤の整備と物流システムの維持、効率化を達成することが求められると思っております。せっかく現場で農林水産物が生産されても、日本全国へ確実に届けられる体制が維持され、発展させることができなければ、食料安全保障は危うくなります。改めて、目標1と目標2に書かれた農林水産業及び食に関連する様々な施策を実現し、さらに発展させていただくことを願っております。この後、計画の推進方策に関して、北海道農林水産業のポテンシャルを的確に把握し、発展可能性を見極めながら、我が国全体の期待に応える目標を検討していただければ幸いです。

最後に、真弓計画部会長に御礼申し上げたいと思います。先ほどの計画の推進に関するご提案に全面的に賛同したいと存じます。

以上、私からのコメントとさせていただきます。どうもありがとうございました。

【石田分科会長】 ありがとうございました。

次は安永竜夫委員でございます。お願いいたします。

【安永委員】 ありがとうございます。はじめに、大変な力作をまとめられた真弓計画部会長に御礼を申し上げたいと思います。何より大事なことは、本計画を着実に推進することで、その観点より、実業界から見た北海道についてお話させていただきます。

1つ目は、人材不足についてです。コロナ禍で働き方が変わり、人材がよりバーチャルな方向に移ってしまった、あるいは外国人労働者が日本に再び戻ってきていない等、様々な複合的な要因がでてきています。これは北海道だけ、はたまた日本だけの問題でもなく、世界中で人材の取り合いが起こっています。その中で、如何に能力のある人材を北海道に惹きつけられるか、例えばRapidus周辺で今後期待される産業を育成し、当該分野にかかわ

る人材を産学連携の下、北海道で育成する事が大事です。

そうすれば、今後発展する産業で就業機会を生み出すことができ、若者も惹きつけていくことができます。トラックドライバーや、観光業など、リアルの世界で人手が足りていない中、外国人労働者を呼び込むことが重要ではないでしょうか。インバウンドツーリスト、即ち、沢山消費にお金を使ってくれる外国人観光客はどんどん来てくださいますと言いながら、いざ就労となると外国人に対して門戸を開いているとは言い難く、非常に難しい問題です。技能実習生の滞在期間を延長するだけでは、世界的な人材獲得競争に勝てないと思います。米国など他の先進諸国は優秀人材を集めるためにグリーンカードや永住権を渡しています。日本の少子化対策がうまく軌道に乗ればよいのですが、実際に生産人口の増加に繋がる迄には20年以上かかります。DXで生産効率を上げるのは勿論ですが、人手が必要な分野に如何に人的リソースを手当てするのかを国全体で考えねばなりません。

2つ目が電力です。Rapidusの登場によって、グリーン電力、脱炭素化がハイライトされています。風力発電や太陽光発電を環境、景観に配慮した形で如何に拡充していくか、ゾーニングをうまく組み合わせて対応していくことが大切です。

これからAI、DXが進むと、データのトラフィックが増加し、データセンターも拡充させねばなりません。電力の消費も飛躍的に増加します。電力の脱炭素化を考えるだけではなく、安定供給もしっかり考えていく必要があります。安全性をしっかりと確保した上で泊原発を早期に再稼働させないと、産業界が必要とする、安定した安価な電源確保がしにくい様にも思えます。

3つ目はメディカルです。インバウンドツーリストが増えることに伴い、外国人の患者が増えることも認識する必要があります。日本人は当然外国人の患者に対して優しく対応しますが、ややもすれば外国人に日本の医療サービスのフリーライドを許してしまうことになりかねません。医療インフラや、医者や看護師の育成に相当な資源を投入したうえで、今の日本の医療システムが出来上がっている中、外国人の患者にどのように対処していくかが課題となります。

基本的には民間医療保険を自身で購入頂き、日本での医療費をカバーして頂くしかないと思いますが、もう一步進んで考えると、こうした状況は日本の医療サービスを外国人に売り込む機会でもあり、メディカルあるいはウェルネスツーリズムが北海道で成り立つのではないかと期待しています。医療制度面でのチャレンジが多々あることは承知していますが、高齢化社会に向け、医者の数も増やさねばなりません。全世代型社会保障制度の改革

が叫ばれ、財源も課題となる中、本当に効率のよい医療提供体制を構築し、医療やその周辺サービスを通じて外貨を獲得する、「メディカル・ウェルネスツーリズム」を一つの産業として考えるべき時代に来ていると思います。

最後に、物流です。食料生産基地として北海道の優位性を保つためには物流の確保が大事です。まさに物流の2024年問題です。北海道の場合、内航船に関わる船員の高齢化が大きな問題になっており、やはりトラック輸送ではなく、安定した鉄道輸送を確保することが大事です。

北海道新幹線の延伸に伴い、貨物輸送が大きく影響を受ける可能性があります。また、新幹線の高速化が図られると、青函トンネル内で交差する貨物列車をどうするか、という点も解決しなければいけない問題です。食料安全保障の観点で、北海道の自給率、更には日本の自給率の向上が大事という点を強調頂いておりますが、ビジネスの観点から申し上げますと、エネルギーと違い、現在日本に食料を供給してくれる国は友好国ばかりです。シーラインが途切れない限り、基本的にモノは入手できます。

もちろん為替と需給の関係で価格は高くなる可能性はあります。それは北海道の中で生産しても同じ事であり、むしろ北海道は、そのブランド力と、肥沃な土地、特徴ある気候を利用して、付加価値が高く、利益率の高い農業に変えていくことが必要ではないでしょうか。既に日本国内で見れば北海道の農業の生産性は相対的に高い訳ですが、諸外国の視点で見ると、必ずしもそうではありません。生産性を高めながら質を上げ、さらには利益の上がる農業にしていくことが結果的に就農する若者を惹きつけます。儲からなければ、自給率を幾ら向上させても、農業分野には人は来ません。自給率はもちろん大事ですし、上げられるに越したことはないのですが、付加価値の高い農業に変えていくことがより重要だと思います。

私からは以上です。

【石田分科会長】 ありがとうございました。

それでは、最後になりましたけれども、代理でご出席いただいております北海道の濱坂副知事にご発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【濱坂副知事】 北海道副知事の濱坂でございます。よろしくお願いいたします。本日、公務の都合により、委員である鈴木知事の出席がかないませんでした。この場でおわびを申し上げます。また、石田分科会長、真弓計画部会長をはじめ、委員の皆様には、日頃から北海道の発展のために格別のお力添えをいただいておりますこと、厚く御礼を申し上げます。

と思います。このたびの計画部会報告の取りまとめに当たりましては、委員の皆様、そして事務局の皆様に変なご尽力をいただきました。心から感謝を申し上げます。北海道としましては、前回の分科会におきまして、次世代半導体・デジタル産業の動向について計画に位置づけていただくようお願いしたところでございますが、部会でしっかりとご議論いただき、反映していただきました。心から感謝を申し上げたいと思います。

私から3点お話をさせていただきたいと思いますが、先ほどRapidusという話が出ておりますが、今月1日でございますけれども、Rapidus社が建設する半導体工場の起工式が行われたところでございます。道といたしましても、今後ともこの国家プロジェクトの成功に向けまして、2025年度パイロットラインの稼働、そして2027年の量産開始というスケジュールの達成を最優先に考えまして、国、そして関係機関の皆様と緊密に連携しながら、スピード感を持って取り組んでまいりたいと考えてございます。

また、2点目、概算要求についてで、ございますが、国では先月末、来年度の概算要求が取りまとめられたところでございます。北海道開発予算でございますが、部会でのご議論を踏まえ、道の要望にもご配慮いただきながら概算要求を取りまとめていただき、このことについてもこの場で感謝を申し上げたいと思いますし、今後の予算編成に向けまして、引き続き北海道開発予算の総額確保についてお願いを申し上げたいと思います。

最後に、現在の我々の動向でございますが、道では、新たな総合計画の策定を進めており、来年の夏頃を目途に決定いたしまして、この9期計画と同じ2024年度からスタートできるように取り組んでいるところでございます。道といたしましては、北海道の持続的な発展に向けまして、引き続き国の計画としっかりと連携させていただきながら各般の取組を進めてまいりたいと、このように考えておりますので、引き続きご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

【石田分科会長】 ありがとうございます。以上で本日もご出席賜った皆様の発言を全員からいただきました。若干時間もございますので、追加での発言がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。伊東先生、手挙げておられますかね。

【伊東委員】 はい。すみません。

【石田分科会長】 お願いいたします。

【伊東委員】 先ほどお話をした中で、今の内閣改造の話をさせていただき、北海道から堀井学さん、渡辺孝一さん、高木宏壽さん、3名の代議士が副大臣に就任した話をさせてい

ただきましたが、堀井学副大臣は、先ほど私、間違っ外務副大臣、堀井巖さんという人と間違えまして紹介しました。本当は内閣府副大臣で、防災、国土強靱化、経済安全保障、科学技術の担当の副大臣に堀井学先生がご就任されたということでもありますので、より北海道に近い課題に本当に直接関わる副大臣でありますので、ご紹介申し上げ、期待をいたしたいと思うところであります。

以上でございます。ありがとうございます。

【石田分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょう、ほかに。田澤委員、お願いいたします。

【田澤委員】 田澤でございます。

お時間をいただけるということなので、本論とちょっと違うんですけども、私、北海道でテレワークでいろんな人が働けるようにしたいという思いの中で、1つ最近気になっていることがございます。それは、いろんなところで今ちょうどライドシェアというのが言われております。都市部ではなかなか難しいのかもしれないですけども、例えば私が住んでいる北海道オホーツクにおきまして、移動手段というのがとてもとてもつらいんです。もちろん住んでいる人は自分の車を持っているかもしれませんが、ワーケーション等で企業さんがいらっしゃったときに、レンタカーを借りれば良いといっても、冬はとても道が危なくなり、いろんな中で、公共交通機関がない、あるいは若い人たちは免許を持っていない方が結構いらっしゃいます。そういった方々が地域に来てライドシェアでちゃんとお金が稼げるようになれば、それは単に観光のときだけではなくて、農業の閑散期だとか、あと副業・兼業と併せてテレワークができるのでこの地域に来た。空いている時間とか有効活用してまた副業が増えるとか、そういった観点からも、地域における交通をよくする、そして地域における人たちが収入を得られるように、今までにない、就業じゃなくて、さらに時間ができるようになったらいいな。なかなか難しい問題ではあると思うんですけども、地域に住む者として、また働き手の収入源を増やしたい者として、お話をさせていただきました。

以上でございます。

【石田分科会長】 ありがとうございます。

家田委員、お願いします。

【家田委員】 ありがとうございます。本当にいい調子の、いい調子というのはちょっと表現が適切じゃないですね。具合いいのがまとまりつつあるなと思って、うれしく思っているんですが、根本的には、北海道もそうだし、各地方ごとに決める国土計画の根本は、そこ

にいる人たち、あるいは関係している人たちが誇りを感じなきゃいけないというのがありますよね。そういうふうに思うと、このレポート、なかなかよくできていて、北海道が潜在的に持っている、あるいは努力の結果こういう地位に達しているところを非常に強調されているのは大変すばらしいと思うんです。差し障りがあるかどうか分からないんだけれども、福島で3・11の後の原発事故もあって、その復興というのでいろいろ努力しているんですが、福島県自身は根本的には農業の、あるいは水産業の県なんですよ。だけど、それだけじゃもちろんいけないので、イノベーション・コースト構想なんて言って一生懸命やっているんですよ。だけど、地元の人からすると、何か落下傘部隊的な感覚を持ちちゃうんですよ。だから、このR a p i d u s、大いに私も期待するところですが、その一方で、伝統的に北海道が努力してきたことというものに対する誇りというものを強調し過ぎて、し過ぎることはないと思うんです。余談ですが、我が家は女房がゆめぴりかの大ファンでありまして、ゆめぴりかししか買わない状態ですけど、明治以来、あの気候が非常に苦しい中で、最初、米を作ること自体がもう困難ですよ。だけど、日本で最高水準にうまい米まで達成できたというのは大変な苦勞と努力の成果じゃないですか。それはやはり、北海道の持ち物ではあるんだけど、それはぼんと落ちてきたような落下傘じゃなくて、道民と言っていいかな、関係する人たちの積み上げてきた誇りですよ。ぜひゆめぴりかも前文の中に入ってくるといい。これは冗談ですけど。真弓先生がまとめているのはそういうニュアンスが非常に強いものなんですが、R a p i d u s なんかが出てくるところに、バランスが取れるように、常に誇りというところを強調されて、プライドというんですかね。シビックプライドみたいなね、と思います。どうもありがとうございました。

【石田分科会長】 ありがとうございました。

いかがでしょうか。

非常に今日、議事進行に協力賜りまして、オンタイムでございまして、本当にありがとうございます。

ないようでしたら、真弓部会長から、部会長のお立場として、各委員からのご意見について、ご感想も含めて発言いただければありがたいと思います。お願いいたします。

【真弓分科会長代理】 どうもありがとうございます。まずは、本計画の計画部会長を務めさせていただき、素案づくりから参画できましたこと、大変光栄に存じます。そして、国交省をはじめ、委員の皆様には、この間大変なご尽力をいただき、まとめ上げることができました。このことについて改めて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。また、

本分科会におきましても、数度にわたり、この第9期の計画について真摯なご議論をいただいております。本日も多種多様な本当に貴重なご意見をいただいたと思っております。この後、石田分科会長の下で本文の成案をなされていくと思っております。その点に関しまして、これまでの分科会の活動、そして分科会長をはじめ、委員、特別委員の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

本日いただきました様々なご意見、計画部会の中でも様々なご意見を頂戴しましたがけれども、またさらに様々なご意見があるんだなと改めて感じた次第でございます。今後、この北海道だけではなく、我が国、世界を取り巻く状況というのは劇的に変わる可能性もありますでしょうし、その変化も不連続、ぽんと違うステージに行ってしまうことも出てくるようにも思います。そういう意味合いでは、この計画が成案になった後の進め方、私から意見として出させていただきましたけれども、柔軟に取り組んでいただく、場合によってはやり方も変える、様々な取組をやる、こういったことも必要だと思いますので、今後の計画部会並びにこの分科会のほうでも、いわゆるP D C Aといったものをしっかり回して、第9期計画での願い、思いの引き続き具現化に向けて動かすことをお願いしたいと思っております。

本日、様々なご意見を頂戴しましたこと、改めてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

【石田分科会長】 それでは、最後に私からも感想を申し上げたいと思っております。

まず最初に、真弓部会長をはじめ、計画部会の皆様方あるいは本分科会の委員の皆様方、そして何より、本当に大変だったと思っておりますけれども、北海道局、そして北海道開発局の皆様方に厚く御礼を申し上げます。どうも、本当にいい取りまとめをしていただきまして、ありがとうございました。

そのときに、やはりこれから本当に大変なステージに入っていると思っております。冒頭の真弓部会長の意見メモにありましたけど、どう実現していくかということでございます。そのことは非常に大事でございます、そのときに、この取りまとめの中でも強調されておりますけれども、いろんな、家田先生からご発言ございましたように、人の気持ちとか愛情とか誇りとか、そういうことも大事ですけど、実際にどう動かしていくかという観点からいたしますと、やはりデジタルも大事だと思います。この取りまとめの中にも、リアルとデジタルのハイブリッドということでございます。ただ、若干心配するのは、リアルのほうの動きがどうもやっぱり遅いなという感じがします。デジタルの部分に比べまして。そのことを、今日の冒頭の真弓部会長及び橋本局長の発言をさらに敷衍いたしますと、どう重く受け止め

て、実現の、特にリアルの部分の実現の速度をどう速めていくか、加速化していくかという、非常に大事な問題だと思っております。家田先生がご尽力された国土形成計画でも、地域生活圏という非常に魅力的なコンセプトが提案されてございますけれども、それも実現は難しいんですけれども、さらに難しいのが、生産空間はさらに、空間が広くて、いろんな人がおられて、いろんなコストもかかりますので、そういうところに志高く持ってどうチャレンジしていくかということが問われていると思います。その精神はこの取りまとめの中に十分記述されておりますので大丈夫だとは思いますが、その精神をどう具現化していくかということがまさに問われていると思いますので、これで終わりということではなくて、皆様方にも引き続きいろんなところでご尽力いただければありがたいなと思っております。ありがとうございました。

《欠席の秋元委員からのご意見》

札幌市長の秋元でございます。本年4月の選挙において、引き続き札幌市長の任を務めさせていただきますことになりました。あらためまして皆様どうぞよろしく願いいたします。本日は都合により出席が叶わず、お詫び申し上げます。

まず、計画部会の委員及び事務局である北海道局の皆様に対して、新たな北海道総合開発計画の計画部会報告を取りまとめていただいたことに感謝申し上げます。

これまで札幌市としましては、水素モデル地区の整備などゼロカーボン北海道の実現に向けた取組や、北海道新幹線の札幌延伸に向けた交通結節機能の強化、スノーリゾートシティSAPPOROとしてのブランド化の推進による観光客の誘客など、北海道が目指す将来像の実現に向けて、札幌市が果たす役割について発言させていただいておりました。

また、今年6月に産学官金の21機関から成る「Team Sapporo-Hokkaido」を設立し、8月には岸田総理へ「北海道札幌 GX・金融特区」の設立に向けた支援や、「8つのGXプロジェクト」実証モデル・事業化への支援を含む5つの要請をさせていただいたところであり、今後ゼロカーボン北海道の実現に向けた具体的な取り組みを展開してまいります。

引き続き国や北海道と連携し、国会議員の皆様や有識者の皆様からのご指導やお力添えをいただきながら、取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。私からは以上でございます。

【石田分科会長】 それでは、続いて、委員からたくさんのご発言をいただきました。事

事務局から追加の説明などがあれば、よろしくお願ひします。

【石川参事官】 委員から本当に貴重なご意見をたくさんいただきました。まだまだ私どものスコープに入っていないご意見もあったと思います。そういったところ、しっかり我々も受け止めて、さらによりよくするために検討していきたいと思っております。今日は貴重なご意見、本当にありがとうございます。

以上でございます。

【石田分科会長】 ただいまの事務局からのコメントに対してさらにご意見等、もしございましたら挙手をお願いします。

【安永委員】 いいですか。

【石田分科会長】 どうぞ。

【安永委員】 大変僭越ながら、民間企業の視点から申し上げますと、横断的な分野で新しいビジネスを行う際、省庁の管掌は関係なく、それを実行するためには何が必要かという発想になるのですが、国土交通省だけの世界で閉じられてしまうと、この計画の本当に大事な部分が必ずしも実現できないのではないかと心配しています。

厚生労働省であれ、経済産業省であれ、あるいは、外国人労働者の話となれば法務省だけの話ではないかもしれません。地方創生というのは、実は複雑で、とてつもなく難しいことを議論しようとしている中、もっと省庁横断型で議論ができる体制をつくらないと実効性が上がらないのではないかと危惧しております。

以上です。

【石田分科会長】 そこは大きな議論になりそうなので、どうしようかなと思うんですけど、いかがでしょうか。レスポンスなりございますか。

【橋本北海道局長】 ご発言いろいろいただきましたもの、時間をお借りしてお答えさせていただきたいと思ひます。お時間の関係もあり、会場にご出席いただひている方のご意見を中心にコメントさせていただくことでお許しいただければと思ひます。

安永委員がおっしゃった4点、人材不足、電力、メディカルツーリズム、物流といったこと。この計画本文を検索すると「人材」という言葉は20回出てきますが、殆どが「人材育成」という文脈での記述です。

「産業」については、私ども、エネルギー政策や第二次産業を直接所掌しているわけではないながら、今回かなり前向きに盛り込んだつもりで、経産省でしたり、エネ庁でしたり各省庁と協議を重ねながら書いているのですが、産業を担う人材確保という点では確かに弱

く感じ、少し厚みを持たせる必要があるんだろうと思いました。

また、「電力の供給の方法」については本当に様々なご意見があり、委員の方の中でも二分するような議論になってしまって、具体的に書き切れないという部分がありましたが、「供給量の確保が必要」という点は議論を待たないわけで、そういったところも少し書いていくような工夫が要ると思いました。

それから「メディカルツーリズム」の件は、観光の高付加価値化に関する記述はあるものの、安永委員がおっしゃっている点では十分書けていないのも事実ですので、厚労省ともやりとりする必要があると思いますが、検討してみたいと思います。

最後に「物流」の点ですが、文中、「付加価値を最大化する供給体制の確保」という記述が1つありますが、そこも厚みが要るんだろうなということを感じました。

それから、最後にいただいた意見は、北海道に必要な内容は当然ながら他にもたくさんある一方、責任を持って遂行する権限がないと、実行・遂行という点で無責任となり、必ず責任を持ってやれるという範囲にどうしても収れんしてしまうという点をご容赦いただけたらと思います。少なくとも過去の7、8期計画に比べれば格段に多く各省庁と議論を重ねているのは事実ですが、安永委員からみればまだまだ狭いということだと思います。ここは我々の反省材料にして、課題として受け止めさせていただきたいと思います。

田澤先生がおっしゃってくださった「シェア」の話ですが、振り返りますと現行の8期計画を作った時代は、まだ貨客混載ということを書けるかも微妙というような頃でした。当時、石田先生にも随分ご相談しながら、その時なりに貨客混載についても前向きに書いたつもりですが、更に時代も変わって、人も少なくなり、今や当たり前の話になっています。

「ライドシェア」はちょうど今、大きな意見対立もありながら議論されている最中ではありますが、閣議決定までの間に大きな方向性が示されるとすれば、それも取り込んで、何か書けることはないかということを考えてまいりたいと思います。

それから、家田先生がおっしゃってくださった、私どもの実行の体制の件で、組織、人材、予算の3点が重要ということを書きました。その中で道庁の振興局との関係に関するコメントもいただきましたが、例えば今回の計画では、一般的にはカーボンニュートラルと表記すべきところを、知事が先頭に立っているゼロカーボン北海道という表現にするなど、道庁の考えにも寄り添って考えているところです。もとより開発局だけが地域連携を先導していくかのように映ることのないよう、進めていきたいとは思っています。

その他、リモート参加の委員の皆様からも様々なご意見をいただきましたので、また中身

も含め一つ一つ精査してまいります。

【石田分科会長】 はい。ありがとうございます。真弓部会長のお力もあって、御指導と
いうか、統率力もあって、今日皆様方に論点を述べていただいた計画になっているんじゃない
のかなと思います。改めて御礼を申し上げます。

もうコメントないと思いますけど、一応確認だけしておきたいと思いますけど、よろしゅ
うございますよね。

ありがとうございます。それでは、本日の議事は以上でございます。冒頭にも申し上げま
したとおり、この計画部会報告は、本日の調査審議を踏まえて、第9期計画の素案として取
りまとめを行い、今後パブリックコメントにかけられる予定のもので、今日もたくさんご意
見いただきましたし、橋本局長からもコメントいただきましたように、事務局には、修正す
べきところは修正をお願いしたいと思いますが、修正した内容の確認につきましては、時間
制約が非常に強いものでございますから、分科会長の私に一任していただければと思いま
す。

特にご異論がなければ、そのようにさせていただこうかと思いますが、よろしゅうござい
ますか。

ありがとうございます。それでは、本日のご意見を踏まえた修正内容の確認については、
私に一任とさせていただきます。

修正点につきましては、パブリックコメントへの対応もでございますので、それも含めまし
て、次回の分科会にてお知らせしたいと思います。事務局は、よろしく願いいたします。

それでは、本日の議事は以上となりますので、事務局に進行をお返しいたします。

【増田総務課長】 ありがとうございます。

最後に、北海道局長の橋本から発言させていただきます。

【橋本北海道局長】 一言、お礼だけでございます。本当に今日はたくさんのご意見をい
ただきました。おかげで、更にこの計画をより良いものにさせていただけること、本当に心
から御礼申し上げます。

最後に、石田先生がおっしゃってくださったリアルの部分の実現の動きが遅いというご
指摘も肝に銘じて、推進体制、この中身の閣議決定、ブラッシュアップとともに、計画策定
後の動きを速やかに取れるようにしてまいりたいと思います。

石田先生、真弓計画部会長、それから出席の皆さん、本当にどうもありがとうございます
た。

以上でございます。

【増田総務課長】 ありがとうございました。

今後の予定につきましては、資料3にも記載がございますが、今後、パブリックコメントを実施した後、第9期計画の今年度内の閣議決定に向け、第28回北海道開発分科会を開催させていただく予定です。

分科会の詳細につきましては、日程調整を含めて、改めてご連絡を差し上げます。

以上をもちまして、第27回北海道開発分科会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

— 了 —